

## 安全データシート

### 1. 化学品等及び会社情報

化学品の名称: タンカル102/104/200/330、カルチョイス250/450、カルフィン600/1000/1300、CL-20、粒状タンカル0.8/1.5/3.0、石灰石粒、炭酸カルシウム肥料、S-40/S-30/S-20/S-13/S-5/F-2.5、炭酸カルシウム、タンカル 325 メッシュ

製品コード: (製品コードなし)

供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社名 全国農業協同組合連合会

担当部署 耕種資材部

住所 〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル 33F

電話番号 03-6271-8285

Fax 番号 03-5218-2536

電子メールアドレス zz\_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp

緊急連絡電話番号 03-6271-8285

推奨用途: 各種フィルター、農薬用キャリア、排煙脱硫、酸性排液の中和処理、肥料、飼料、コンクリート材料、硝子原料、その他一般化学工業用

使用上の制限: 情報なし

国内製造業者等の情報: 足立石灰工業株式会社

### 2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性: 区分に該当しない/分類できない

健康に対する有害性:

皮膚腐食性/刺激性: 区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分 2

発がん性: 区分 1A

環境に対する有害性: 区分に該当しない/分類できない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語: 危険

危険有害性情報: H315 皮膚刺激、H319 強い目刺激、H350 発がんのおそれ(呼吸器系)

注意書き:

## 安全対策:

- P201 使用前に安全データシートを入手すること。
- P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- P264 取扱後は手をよく洗うこと。
- P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

## 応急措置:

- P302+P352 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
- P321 特別な処置が必要である(この SDS の 4.応急措置を見よ)。
- P332+P313 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断を受けること。
- P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P305+P351+P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P337+P313 目の刺激が続く場合: 医師の診察を受けること。
- P308+P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察を受けること。

保管: P405 施錠して保管すること。

廃棄: P501 内容物又は容器を都道府県知事の規則に従って廃棄すること。

GHS 分類区分に該当しない又は GHS で扱われない他の危険有害性: 情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要: 情報なし

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 化学物質 (単一製品)

化学名又は一般名: 石灰岩、石灰石 (Limestone, Limestone Powder)

慣用名又は別名: タンカル、石灰石粉、石粉

化学物質を特定できる一般的な番号: CAS 番号 1317 - 65 - 3

成分及び濃度又は濃度範囲: CaCO<sub>3</sub> として 95%以上 (主成分: 炭酸カルシウム (Calcium Carbonate)、CaCO<sub>3</sub>)

官報公示整理番号: (炭酸カルシウム: 化審法 1-122)

GHS 分類に寄与する成分:

不純物:

化学名又は一般名: 石英(結晶) (Quartz)

慣用名又は別名: ケイ砂、二酸化ケイ素、結晶質シリカ (Crystalline quartz)

化学物質を特定できる一般的な番号: CAS 番号 14808 - 60 - 7

成分及び濃度又は濃度範囲(含有率): 1.0%未満

官報公示整理番号: 化審法 1-548、安衛法 別表第 9 の 165 の 2

安定化添加物: 添加していない

#### 4. 応急措置

吸入した場合： 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合： 多量の水と石鹼で洗う。皮膚刺激が生じた場合は医師の診断を受けること。

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。直ちに医師に診断を受けること。

飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状： 情報なし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項： 情報なし

医師に対する特別な注意事項： 情報なし

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤： 全ての消火剤が使用可能。この製品自体は、燃焼しない。

使ってはならない消火剤： 情報なし

火災時の特有の危険有害性： 情報なし

特有の消火方法： 情報なし

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置： 保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 関係者以外の立入りを禁止する。処理を行う際には、作業者は必ず保護手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。

環境に対する注意事項： 流出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材： 漏出したものをすくいとり、又は掃き集めて紙袋又はドラム缶等の密閉できる容器に回収する。

二次災害の防止策： 排水溝、下水溝への流入を防ぐ。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

取扱者のばく露防止： 取扱者は必ず保護手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。眼、皮膚、衣類に付けないこと。発散した粉じんを吸い込まないようにする。取扱い場所には、関係者以外の立入りを禁止する。

火災・爆発の防止： 情報なし

その他の注意： 情報なし

局所排気・全体排気： 取扱う場合は、局所排気、又は全体排気の設備のある場所で取扱う。

安全取扱注意事項： 粉じんが発生しないように取扱う。

接触回避： 酸性の製品との接触を避ける。

衛生対策： 休憩場所には、手洗い、洗眼等の設備を設け、取り扱い後に手、顔等をよく洗う。指定された場所以外では、飲食、喫煙を行ってはならない。

保管

安全な保管条件：

適切な技術的対策： 保管場所は、必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

混触禁止物質： 酸性物質と一緒に保管しない。

適切な保管条件や避けるべき保管条件： 屋内の冷暗所に保管する。大気との接触をできるだけ避け、防湿に留意する。施錠して保管すること。

注意事項： 情報なし

安全な容器包装材料： 製品が漏洩しない材料を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等：

成分名	許容濃度
石灰石	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本産業学会(2021) 第3種粉塵, 吸入性粉塵: 2mg/m<sup>3</sup>, 総粉塵: 8mg/m<sup>3</sup></li> <li>・ACGIH TLV (2021) TWA: 10 mg/m<sup>3</sup>; (Inhalable particulate matter containing no asbestos and &lt;math&gt;\leq 1\%&lt;/math&gt; crystalline silica)</li> </ul>
石英	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本産業学会(2021) 吸入性粉塵: 0.03mg/m<sup>3</sup></li> <li>・ACGIH TLV (2021) TWA: 0.025 mg/m<sup>3</sup> (respirable fraction)</li> </ul>

設備対策： 粉じんが発生する場合は、局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに、手洗い、洗眼の設備を設置する。

保護具：

呼吸用保護具： 防じんマスク

手の保護具： 保護手袋(ゴム製又は耐薬品型)

眼、顔面の保護具： 保護眼鏡(ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具： 保護服(長袖・長ズボン作業衣)

特別な注意事項： 情報なし

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態： 標準状態下において固体、粉体又は粒状

色： 灰白色～白色

臭い： 無臭

融点/凝固点： 825℃で分解して酸化カルシウムとなる

沸点又は初蒸留及び沸点範囲： 825℃で分解して酸化カルシウムとなる

可燃性： 不燃

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界： 固体のため該当しない

引火点： 固体のため該当しない

自然発火点： 固体のため該当しない

分解温度： 825℃で分解して酸化カルシウムとなる

pH： 9

動粘性率： 固体のため該当しない

溶解度： 1.5mg/100cm<sup>3</sup> (20℃)

n-オクタール/水分配係数(log 値)： 情報なし

蒸気圧： 情報なし

密度又は相対密度： 2.7

相対ガス密度： 固体のため該当しない

粒子特性： 情報なし

## 10. 安定性及び反応性

反応性： 酸と反応して二酸化炭素を発生する

化学的安定性： 常温常圧下で安定

危険有害反応可能性： 情報なし

避けるべき条件： 情報なし

混触危険物質： 強酸化剤、酸類

危険有害な分解生成物： 825℃で熱分解して酸化カルシウムとなる

## 11. 有害性情報

急性毒性

経口： 炭酸カルシウムで、ラット(不明)LD<sub>50</sub> 6,450mg/kg、ラット(雌)LD<sub>50</sub> 2,000 mg/kg 以上(食品安全委員会添加物評価書(2013))。

吸入： 情報なし

経皮： 情報なし

皮膚腐食性/刺激性：

炭酸カルシウムで、ラビット 500mg/kg 24H 中程度(RTECS)、長時間付着すると肌荒れ

を起こすことがある。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：

炭酸カルシウムで、ラビット 750  $\mu\text{g}/\text{kg}$  24H 重度(RTECS)、眼に入ると痛みを感じ粘膜を傷めることがある。結晶質一石英で、SITTIG(4th, 2002)に眼刺激性を示す記載がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性： 情報なし

生殖細胞変異原性： 情報なし

発がん性：

多くの疫学研究結果において、石英を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した (IARC 100C (2012)、SIDS (2013))。すなわち、結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている (IARC 100C (2012))。一方、実験動物では雌雄ラットに結晶性シリカ (空気力学的中央粒子径 (MMAD) : 1.3  $\mu\text{m}$ ) を 1  $\text{mg}/\text{m}^3$  で2年間吸入ばく露した試験、また雌ラットに結晶性シリカ (MMAD: 2.24  $\mu\text{m}$ ) を 12  $\text{mg}/\text{m}^3$  で83週間鼻部ばく露した試験において、ばく露群では肺腫瘍の有意な増加がみられ、組織型としては腺がんが多かった。さらに、雌ラットに結晶性シリカ (MMAD: 1.8  $\mu\text{m}$ ) を 6.1、30.6  $\text{mg}/\text{m}^3$  で鼻部ばく露した試験でも、用量依存的に肺腫瘍の増加がみられ、組織型では扁平上皮がんが最多で、細気管支/肺胞上皮がん、又は腺腫も多くみられた (IARC 100c (2012))。

生殖毒性： 情報なし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)： 情報なし

特定標的臓器毒性(反復ばく露)： 情報なし

誤えん有害性： 情報なし

## 12. 環境影響情報

生態毒性： 魚類(mosquito-fish) での96時間  $\text{LC}_{50} = 5.6\%$ 以上(日本水産資源保護協会月報, No128(1975))

残留性・分解性： 情報なし

生態蓄積性： 情報なし

土壤中の移動性： 情報なし

オゾン層への有害性： 石灰石はモントリオール議定書の付属書に列記されていない。

他の有害影響： 情報なし

## 13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)： 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を

行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

化学品が付着している汚染容器及び包装： 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

#### 14. 輸送上の注意

国連番号： 該当しない

品名： 該当しない

国連分類： 該当しない

容器等級： 該当しない

海洋汚染物質： 該当しない

MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質： 該当しない  
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策： 容器の破損、吸湿が起きないように、乱暴な取扱いを避け、荷崩れ防止を確実にを行う。

国内規制：

海上規制情報： 船舶安全法における危険物に該当しない

航空規制情報： 航空法における規制物質に該当しない

陸上規制情報： 消防法及び道路法における危険物に該当しない

#### 15. 適用法令

労働安全衛生法

石灰石： 粉じん障害防止規則

石英： 名称等を表示すべき危険有害物(法第 57 条、施行令第 18 条別表第 9)、名称等を通知すべき危険有害物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9)、リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第 57 条の 3)、労働者のばく露の状況、作業の概要等の記録を 30 年間保存の対象となる物質(安衛則第 577 条の 2 の 3)

じん肺法

石灰石： 法第 2 条、施行規則第 2 条別表 粉じん作業

海洋汚染防止法

石灰石： 施行令別表第 1 有害液体物質(Z 類)：(65)炭酸カルシウムスラリー

肥料取締法

石灰石： 農林水産省告示、肥料取締法に基づき普通肥料の公定規格を定める等の件(七石灰質肥料 炭酸カルシウム肥料)

## 16. その他の情報

この SDS は JIS Z7253:2019 に準拠しています。記載内容は、改定日までに入手できた資料に基づき作成されておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、安全な取り扱い等に関する情報提供を目的としておりますので物性値や危険有害性情報などは製品規格書等とは異なります。全ての製品にはまだ知られていない危険性を有する可能性がありますので取り扱いには十分注意して下さい。

以上

改定履歴

2023年3月18日:

(追加)15. 適用法令、労働安全衛生法、石英: 労働者のばく露の状況、作業の概要等の記録を30年間保存の対象となる物質(安衛則第577条の2の3)

(理由)2023年4月1日施行、安衛則第577条の2第3項の規定に基づくがん原性物質は、リスクアセスメント対象物(安衛則第34条の2の7第1項第1号で定めるものをいう。以下同じ。)のうち、国が行う化学物質の有害性の分類の結果、発がん性の区分が区分1に該当する物であって、令和3年3月31日までの間において当該区分に該当すると分類されたものとする。

2023年11月2日:

(削除)15. 適用法令、大気汚染防止法、石英: 有害大気汚染物質(法第2条第13項、環境省通知)

(理由)再調査の結果、第9次答申におけるリストに石英がなかったため。

2025年2月25日:

(追加)3. 組成及び成分情報、成分及び濃度又は濃度範囲の項目に”CaCO<sub>3</sub>として95%以上”を追加した

(理由)顧客要望のため

2025年3月12日:

(削除)3. 組成及び成分情報、成分及び濃度又は濃度範囲の項目に”CaOとして54%以上”を削除した

(理由)顧客要望のため

本 SDS は、下記足立石灰工業株式会社の情報を元に作成しました。該当物質については、下記にお問い合わせください。

会社名称: 足立石灰工業株式会社

住所: 岡山県新見市足立3893番地

電話番号: 0867-95-7111(代表)

供給者のファクシミリ番号又は電子メールアドレス

FAX 番号: 0867-95-7718

メールアドレス: [info@ashidachi.co.jp](mailto:info@ashidachi.co.jp)

緊急連絡電話番号: 0867-95-7111